

東京大学 宇宙線研究所 宇宙線国際研究拠点



拠点長: 梶田 隆章

○宇宙線物理学における世界の中核機関として、大型の光学望遠鏡やX線衛星では観測できない天体の深部における**物理現象を、高エネルギー宇宙線・ニュートリノ・重力波などによって解明していく研究**を国際的な共同利用・共同研究体制により**推進**する。また、国際的な環境で最先端の宇宙線研究を経験できる場を提供し、**若手研究者の育成**に大きく寄与する。

研究所の概要

研究分野: 宇宙線・素粒子・宇宙物理

研究者数: 66人(平成30年5月1日現在)

実績: 推進している**主な研究プロジェクトは、全て国際共同研究**である。
参加研究者(うち外国人); スーパーカミオカンデ(SK) 165人(72人)、KAGRA 288人(79人)、TA 130人(51人)、CTA 1400人(9割外国人)、チベット実験84人(47人)
このうちSKでの研究が、ノーベル賞、ブレイクスルー賞の受賞に繋がった。



当該研究所の現状分析

宇宙線研究所は、SKやKAGRA、CTAなどの観測拠点を有しており、宇宙線物理学における世界の中核研究機関であるが、今後も、これらの国際共同研究を推進し発展させていくためには、受け入れている**海外研究者への研究支援を強化**する必要がある。

また、最先端の研究をできる場を活かし、国際的に主導的な役割を担う、**次世代の研究者の育成を強化**する必要がある。

機能強化を図る取組

- 共同利用・共同研究の国際公募を実施し、**外国人研究者の日本国内旅費と研究費をサポート**する。
- 外国人対応のURAや事務職員を雇用し、**外国人研究者への支援体制を強化**する。
- 特任研究員を増員し、**若手の研究者を支援**する。
- 外国人客員教員を増員し、著名な外国の研究者を迎え、国際的で多様な研究を推進する。
- 必要に応じて情報発信のためのシンポジウムを開催し、国際共同利用研究の成果を発信する。

機能強化により期待される効果

- 各プロジェクトへの国内外からの**参加研究者が増え、研究が加速**する。
- 国際経験豊富で**優秀な若手研究者を育成**できる。
- 世界の中で宇宙線研究所の主導的な役割が高まり、**世界の中核となるハブ組織へと発展**することができる。